

平成26年11月28日

府中市長 高野 律 雄 様

府中市自然環境調査員会議
会 長 大 澤 邦 男

報告書

府中市自然環境調査員会議は平成24年12月に発足して2年が経過しました。この間に当会議は、市内の動植物の生息状況を把握する調査を継続するとともに、市民に自然環境の保全の大切さを啓発してまいりました。

発足後、本市の自然環境の現状を把握するため、かつて府中市自然調査団がおこなった「府中市自然調査報告」を参考に調査方法を検討し、調査地点を「武蔵台公園」と定め、約2年間毎月1回の武蔵台公園における自然環境調査を実施しました。分類においては野草、樹木、鳥類、昆虫の4分類の調査結果を積み上げてまいりました。この自然環境調査は今後も継続し、生物多様性の保全に繋げていく取組みと考えております。その他、研修会や学習会へ参加し、委員の知識向上にも努めてまいりました。

また、前身である府中市緑の活動推進委員会より引き継いでいるウォーキングマップを改訂し、これを利用して市内ウォーキングツアーを実施いたしました。府中の自然の再発見に努めるとともに、マップは第4版の発行をするまでになりました。

恒例の府中環境まつりにおいても積極的に協力参加し、自然体験コーナーの運営に携わってまいりました。また、身近な木の実や木の葉を使ったリース作りの指導、ツバメの集団ねぐら市民観察会や蓮を観る会などへの協力等多くの幅広い活動を行ってまいりました。

このほど、2年間の任期を満了するにあたり、その活動を通して得たことを依頼事項に沿って報告します。

記

自然環境の保全の推進を図るため、次の活動に取り組むこと

(1) 市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握に関すること

- ・ 伐除したアズマネザサをそのまま放置すると、潜在植生のキンランやマヤランなどがまた消えてなくなってしまう恐れがあります。継続は力。
- ・ 崖線下に水溜りか水路ができる場所があると生物多様性の点からも良いのでは。
- ・ 調査の内容は今のままで良いが、持続して変化を読み取り、原因を突き止めることが、今後のあり方を左右する重要なポイントです。継続は力。
- ・ 温暖化が進み台頭してきた、西日本からきた昆虫や植物をどのようにしていくかの選択。
- ・ 持ち込み植物や園芸品種の野化種の扱い。

- ・現状のままで良いと思うが、継続していくことが大切である。
- ・武蔵台公園での活動は植物班でした。月1回の調査ですが年間を通して自然の移り変わりに感動します。特に春から夏・秋にかけて。春先から初夏にかけては、新芽の息吹きやつぼみが開花している様子はすばらしく、繁茂している緑の中で可愛らしい花を見つけると心が弾みます。開花・実がつく時期に特別に調査日を設けて、市民の皆さんと調査できればと考えます。
- ・武蔵台公園の保全をどのように進めていくのか検討して方針を出し、公園緑地課と環境政策課と連携して公園の保全を行いたい。つまり、武蔵台公園の保全計画を作成して活動を進めるということである。
- ・カブトムシやクワガタ等の夏の昆虫が激減しているのは、寺社所有地・私有林を除けば概ね市内全域である。逆に、外来のオオマルハナバチや南方系のアカホシゴマダラ、ツマグロヒョウモンをしばしば見かけるようになった。以上二つの傾向は今後続くものと考えている。
- ・自然環境調査における昆虫類調査時間が短い→約3時間必要である。
- ・自然環境調査における昆虫類調査方法の再検討→夜間観察・トラップによる採集観察等。
- ・調査員の専門知識の向上→外部からの専門家の指導がより必要である。
- ・調査報告に必要な費用分担→現状では全て個人負担である。
- ・自然環境学習会並びに自然環境調査の実施、ウォーキング等二年間参加させていたいただきましたが、府中市の恵まれた環境のなかで、本当に素敵な触れあいができました。武蔵台公園では、クワガタや貴重な植物をたくさん観察できました。
- ・植物を担当して武蔵台公園全体を調査していますが、範囲が広く、新しい植物を発見しても次回調査の時には場所が分からなくなり別の場所を探してしまう時もあるので、公園の地図に植生の場所を記入していくことが良いと思います。
- ・小さな一点だが、武蔵台公園の植物・昆虫・野鳥の生息状況調査が継続的に行われていることは評価できる。これからはデータの信頼性の向上、それらの公表、更には他団体等との確かな連携などが必要となろう。(1)のまとめは、私の十数年来の希望である「府中の自然」というような本の発行としたいが、道は遠いか。
- ・2年にわたる植物調査で、武蔵台公園は市内では浅間山と同様に豊かな植生が残っていることが確認できた。ラン科だけでもキンラン・ギンラン・ササバギンラン・シュンラン・オオバノトンボソウ・マヤラン・サイハイラン(植栽か)など7種が確認できた。このほかハナタデ・ダイコンソウ・フジカンゾウ・カラスノゴマ・ミズタマソウ・キランソウ・ジュウニヒトエ・ニガナ・ヤクシソウ・キツネノカミソリ・オトコエシ・ヤマユリなど市内ではほとんど消滅したと思われる野生種が自生していた。今後の課題はこれらの植物の保全と、これまで行ってきたササ刈りの再開をどのようにするかである。そのためには武蔵台公園の管理保全計画を策定し、これにもとづい

た管理の仕組みを早急に立ち上げ、実施することである。また、余裕があれば武蔵台公園だけでなく、四谷の田園地帯など市内の他のホットスポットの調査を実施できたらと思う。

- ・自然全般を観察したいと思い、初年度は鳥班に入れていただきました。自然豊かな武蔵台公園にたくさんの鳥がいるのだと思っていたのですが、意外と民家の側の遊歩道沿いや公園等と同じくらいの数と種数だと思いました。2年目は昆虫班に入れていただきました。擬態している蛾等を教えていただいてやっとわかるような見事さでした。また、昆虫はすぐに天敵から逃げられるように、樹木に下を向いてくっついていくということを教わり、奥深さを知りました。

- ・年間を通して観察された野鳥の種類は、25種程度となっております。嬉しいことは、ツミの繁殖期の営巣準備や秋の渡りの時期に、ツツドリ、ツミ、ヒヨドリ、メジロなどが採餌のため武蔵台公園に立ち寄ってくれているのを確認できたこと。寂しいことは、平成26年度は現在まで全くウグイスの姿が見えず、地鳴きが聞かれなくなったこと。時期的には、道沿いの笹刈り後の4月からであるが、それが直接影響しているのか定かではなく、今後の様子を見るが、これらを含め武蔵台公園をどのように整備していくかが今後の課題です。野鳥担当であるが、それ以外の分野の調査に関わっていないので、これでいいのかと思う。

- ・昆虫を担当しているが、昆虫観察は初期に公園を大まかに分割し観察場所を明記している。植物に関しては、さらに細かい観察場所の分割（アドレス付け）が必要ではないかと考える。現在、植物・野鳥・昆虫の3項についての調査であるが、他の担当の観察結果が見えてこない。会議という名目で集めたと考えていたが、隔月の会議はほとんど会議を呈していない。少なくとも毎月観察会の1週間後くらいに観察結果の報告と検討会を開催し、現状を調査員全員が把握すべきではないか。観察結果の資料として調査員から写真が提示されたことがあるが、カラーであることで配付されなかった。資料のカラー化は必須である。調査員が共通認識するためにもこのあたりの考慮も願いたい。

- ・種の多さは想像以上だったが、種によって個体数に差があり、絶滅が危惧される種も多く、その維持が課題だと考える。今まで調査の及ばなかった場所を調査すれば新たな発見が期待される。そのためには、下草刈りなどの整備を行い調査区域の拡大を図る。また、個体数の調査や希少種の保護・育成、外来種の駆除も併せて行うことが望ましいと考える。

(2) 自然環境の保全のための普及啓発に関すること

- ・巣箱や花を扱うのなら、ゴールデンウィーク前が良い。
- ・他のツアーとの格差をつけて、何を狙いにするのか。また、お互い開催回数が多いすぎるのでは。

- ・周辺市町村とのイベントの違いが曖昧である。
- ・お得感や体験物。
- ・私達の住んでいる府中をウォーキングマップに沿って歩き、府中の歴史と緑豊かな自然環境と動植物の生態系を理解することが必要です。このことにより、市民が気軽に参加でき自然と触れ合うことのできるイベントの実施につながると思います。季節ごとや桜の時期などの実施が参加しやすく、小さなことから自分達の住んでいる街の環境を知っていただける機会になると思います。
- ・府中環境まつりで、自然環境調査員会議の活動内容を掲示したい。また、ウォーキングツアーの実施により自然環境を保全する大切さを伝えたい。多摩川河川敷の植物保護区及びツバメの集団ねぐら入りを市民へ知らせ、ツバメの営巣の調査を続けていきたい。
- ・「環境」とは「人の身のまわりの総体」といえば「自然環境」もその一環ではあるが、「府中環境まつり」の方向よりは、「農業まつり」と近縁の処にあり、問題を共有し得ると考える。ウォーキングツアーが高齢者の「ウォーキングツアー」の赴があるのは、それはそれで良いが、もう少し若い人が参加するようにはどうしたら良いだろうか。
- ・1年間の調査報告会の実施→市民向けの報告会・植物－野鳥－昆虫の3版の報告と総括的立場からの専門家の評価が必要である。
- ・環境まつり・展示方法の再検討→植物－野鳥－昆虫の担当分野の明確の徹底。
- ・環境まつり・調査員の再検討→他の部門に参加している調査員が多いこともあり、環境まつりの主体性に問題あり。
- ・自然観察ツアー方法の再検討→ウォーキングマップに拘る必要性なし。自然観察をより重点的に実施すべき。
- ・調査活動以外の活動の検討→市地域内の生物に関する、新しい情報発信の方法の有り方・実施方法を早急に検討する必要がある。
- ・多くの市民の方に知っていただく為にも、このような活動をする事はとても有意義なことであると思います。これからも頑張りたいと思います。
- ・昨年ウォーキングマップの見直しをしてからウォーキングツアーを2回実施しましたが、まだまだコースによっては時間内に回りきれない所もあり、その為にゆっくり説明を聞いたり周りを見るゆとりも無いように思います。歩くペースが速いことも影響していると思いますが、コースによっては見直しが必要なのではないでしょうか。
- ・②については、生物系の専門的知識がそれほどなくても活動できる。生きものを分析的に捉えず、全体として捉える視点が必要であろう。これなら私にもできそう。ヒトは生きものや自然のつながりの中で生きていることをいろいろなイベントで、子供達や大人達に伝え、共感し、理解し合う。こうして生きものや人、人と人とのより良い関係が構築されていく。…なんてことは胸に収めておいて「皆と楽しく」がイベ

ント参加のコツかも。

- ・環境まつりでは「巣箱づくり」が人気があるが、桜まつりでも「どんぐりコマづくり」など参加型のイベントを実施したらどうか。また、市役所や武蔵台文化センターなどで「武蔵台公園の動植物の写真展」を行い、PRしたらどうだろうか。

- ・自然観察ウォーキングツアーやリース作り等への参加者が少ない感があります。参加意思のある市民数はそんなに多くないと思われませんが、市主催のウォーキングイベントが、気候の良い春秋に集中するため参加者が分散されると思います。開催時期やメインとなる内容の検討が必要かと思えます。

- ・広報の募集では、自然環境調査員会議の名称から、自然環境の調査と自然環境の保全をどのように進めていくか、現状に沿った具体案を考え市長に提案することを考えていた。桜まつりや蓮を観る会などの参加は思いもよらず違和感を持つ。年2回のウォーキングツアー、ツバメの集団ねぐら市民観察会、環境まつりでの巣箱づくりなどは、自然環境の保全のために有効と考える。特にツバメの集団ねぐら市民観察会については、最盛時期の2週間くらいはのぼりと案内板が欲しい。

- ・武蔵台公園の来園者の誘致を積極的に行い、その素晴らしさを認知してもらうことが、保全活動の第一歩だと思う。また、今までの調査結果を周知し、データだけでなく写真等で目に訴える。どのような公園にするか基本コンセプトを構築し、協力者を募る。公園を周知させるツール（パンフレット・チラシ等）の制作も考える。

(3) その他

- ・是政橋と南武線の間には、ススキとオギがあり、20年前は冬になると金色に輝く河原であったが、現在はアレチウリやセイタカアワダチソウなどで見る影もない。今年の府中市多摩川左岸のアレチウリの猛威には驚くばかりだが、このあたりの保全のための努力を注ぐべきであろうと考える。

以上